

静岡文化情報

(財)静岡市文化振興財団

まちがど

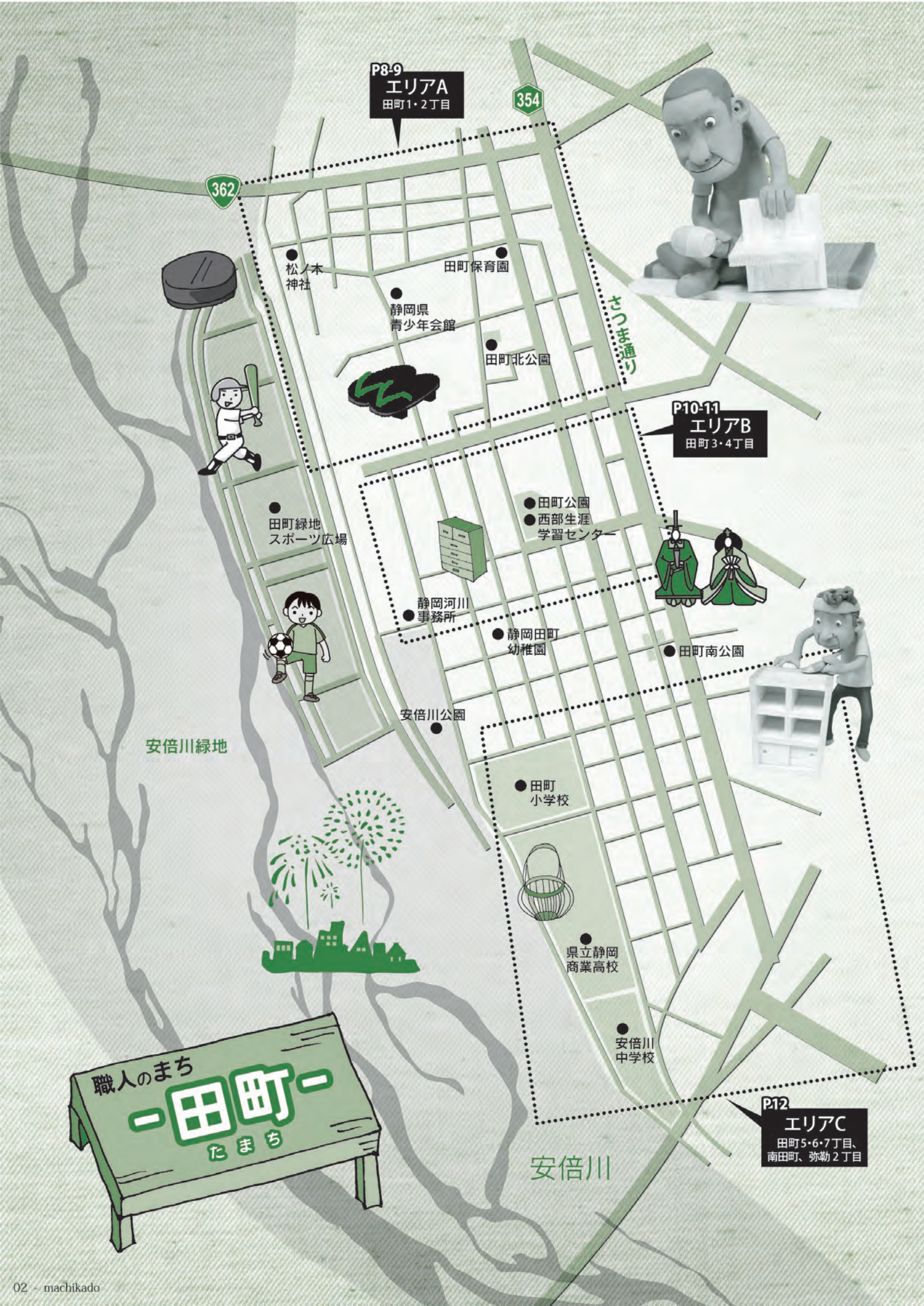
VOL. 38

MACHI-KADO



職人のまち

田町散策



田町の成り立ち

田町という町名の由来は、読んで字のとおり「田んぼの町」というところから。江戸時代初期に薩摩土手が建造された際、新田開発で切り開かれた土地であることによるという。しかし、大正15年に耕地整理が行われたのを皮切りに宅地としての整備が進み、やがて職人のまちとして、住宅地として発展していくこととなる。人口も大きく増加し、昭和30年頃には田町小学校が日本一のマンモス校になった事もあるという。現在は最盛期ほどの人口はないが、職人技が息づき、地域のつながりの強い、ぬくもりあるまちになっている。



田町公園の隅にある耕地整理の記念碑。

職人のまち

静岡市の地場産業は、駿府城や浅間神社、久能山東照宮の建築などの大きな事業に支えられて発展してきた。それらの工事には全国から大勢の職人が集められ、工事の後も定住するようになったのが静岡市の地場産業の始まりと言われている。

中でも伝統工芸では現在、木製家具、駿河雛具、駿河竹千筋細工、駿河蒔絵、駿河漆器、駿河指物などがあり、田町はその中心となって栄えた歴史がある。昭和10年頃の田町は人家が少なく、病院や養蚕試験場や桑畑があったのみであったが、その後移り住む人が増え、ものづくりのまちとして栄えた。



駿河蒔絵



駿河竹千筋細工



駿河漆器



曲物



田町讃美歌

田町よいとこ一度はおいで ドッコイショ
土堤のなかにも コリヤ 花が咲くよ チョイナチョイナ
火屋の土堤とは昔のことよ ドッコイショ
丸に十の字の コリヤ 薩摩土手よ チョイナチョイナ
田町よいとこ下駄やかびさる ドッコイショ
塗師がくるかと コリヤ 待つ蒔絵師 チョイナチョイナ
嫁に行くなら田町へおいで ドッコイショ
筆筒鏡台 コリヤ 家具もあるよ チョイナチョイナ
婿を尋ねに田町へおいで ドッコイショ
産業戦士の コリヤ 住むところよ チョイナチョイナ
地の利あるうても人気はよいよ ドッコイショ
造りましようや コリヤ 理想街を チョイナチョイナ
安倍の川原の舟山さんを ドッコイショ
花の化粧で コリヤ 眺めたいよ チョイナチョイナ
月がでるでる三日月さんが ドッコイショ
山の上から コリヤ 徳願寺よ チョイナチョイナ

コラム Column

田町讃美歌

昭和10年代、当時すでにその役目を終えていた薩摩土手を削り取るという運動が起きた。この時、関係者に田町を紹介するために、当時市議員だった伊藤福松さんが作ったと言われる替え歌が残っている。田町の特徴をよく表しており、草津節の調子に載せて歌えば、田町の情景が脳裏に浮かんでくるかもしれない。

特集

田町と安倍川

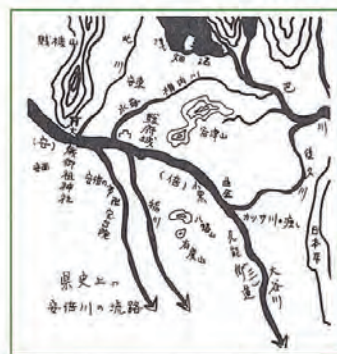
田町の東側に沿って南北に走るさつま通りの名は、かつてここにあった薩摩土手に由来している。土手と川の間であり、文字通りの「田の町」だった田町の歴史は、安倍川の歴史とも深く関わっているのだ。



01. 薩摩土手ができるまで

かつての安倍川は大きくうねり、枝分かれをしながら静岡平野全域を流れていた。また安倍川は大変な急流でもあり、何度も氾濫による被害を出していた。そのため、被害を抑えるための河川改修も度重なり行われてきた。晩年を駿府ですごした徳川家康も安倍川の大改修を行った人物の一人だ。

家康は江戸時代の初め頃、駿府の街を洪水から守るために長大な土手を作ろうと思い立った。北は籠上から南は中野新田まで、薩摩土手の長さは約 4.4 km だったが、外堤と内堤のある二重構造で全延長は倍近い 7.8 km に及んだ。また土手の幅は 22m、高さは 5m 以上あったという。当時としては大変な大工事だったと想像できる。家康はこの改修工事を薩摩の島津氏に命じて行わせたため、出来上がった土手は「薩摩土手」と呼ばれるようになったと言われる。



『県史上の安倍川の流路』朝比奈清著
『さつま通り 薩摩土手の築堤と変遷』より

02. 薩摩土手があった頃

薩摩土手の完成により洪水から守られた駿府は、大御所家康のお膝元として大きく発展した。とは言え、安倍川は変わらず急流として名高く、東海道を通る旅人たちからは難所のひとつに数えられていた。当時の様子を描いた浮世絵からは、当時の駿府の活気ある様子と、安倍川越えの厳しさを共に感じる事ができる。そんな急流安倍川が相手では、薩摩土手でも駿府を洪水から守りきることはできず、駿府はやはり度々洪水の被害に見舞われていた。

再び大改修の転機が訪れるのは大正 3 年。記録的な大洪水により当時 13,000 戸だった静岡市の家屋の内、8,000 戸以上に浸水するという被害が発生した。これを受けて当時の静岡県知事湯浅倉平が県議会の反対を押し切ってまで安倍川の大改修を開始。工事は実に 30 年に渡り、かつての薩摩土手よりも西側に当たる現在の位置に堤防が形作られていった。



『東海道五十三次之内 府中・安倍川』
静岡市東海道広重美術館蔵

03. 薩摩土手からさつま通りへ

より西側に新たな堤防が作られると、度重なる改修を経ながら江戸時代から静岡を守り続けてきた薩摩土手はその役目を終え、削り取られることになった。長大な土手であったため、削り取るのも大工事だ。削り取る工事はすべて手作業で昭和 30 年から 3 年間にわたった。また、この時すでに計画開始からは 20 年が経過していたという。

こうして薩摩土手は通りになったが、まだ「さつま通り」と呼ばれていたわけではなかった。この通りにはなかなか名前が付けられなかったのだ。名前が付いたのは昭和 39 年、名付け親はなんと小学生だった。三番町小学校の郷土研究部の子どもたちが、地域の歴史を調べて作成した「きょう土新聞」の中で提案した「さつま通り」という名称が、地域の人に受け入れられ、正式な名前になっていったのである。



現在のさつま通り

04. 現在の田町

西側に堅固な土手ができた事により、田町は安心して暮らせる土地となり、現在の住宅地が出来上がった。また、安倍川の河川敷は公園やスポーツ広場として整備され、田町のみならず、静岡市の人々の憩いの場となっている。

田町の北寄りの河川敷には田町緑地スポーツ広場、南寄りの河川敷には田町安倍中スポーツ広場があり、ソフトボール場、野球場、サッカー場、多目的広場が整備されている。この広場でスポーツを楽しむ人は、年間で延べ 10 万人を超える。

また安倍川の河川敷と言えば静岡の夏の風物詩、安倍川花火大会は外せない。もともとは戦没者の慰霊のために始められたこの花火大会、開始前には戦没者の供養祭が行われている。戦没者供養塔があるのも安倍川沿い、安倍川橋のすぐ近くを探してみよう。



田町安倍中スポーツ広場の野球場



戦没者の供養塔

コラム Column

し お き ば
仕置場のはなし

現在の景色からは想像もつかないが、かつて、安倍川橋のたもとには刑場（当時は仕置場と呼ばれていた）があったのだという。今でもその名残をとことんに見る事ができる。

安倍川橋にほど近い弥勒公園内には、「由比正雪首塚の碑」が建つ。幕府への反乱に失敗し自決した正雪の首は仕置場に晒され、それを憐れんだ人々によってこの場に首塚が建てられたのだと言う。公園から本通りを北へ渡ると、建物の間にひっそりと「駿府キリシタン殉教の碑」が建っている。碑文によると、キリシタンが禁止されていた江戸時代、改宗の命令に従わなかったキリシタン教徒が処刑されたのだという。また、安倍川寄りに歩を進めると、「首地蔵」の小さな祠がある。首より上の病氣にご利益があるといわれる地蔵だが、その名前から仕置場と関係があるのではないかとも言われている。

少し北側に目を移すと、十字路で 4 つに分かれた特徴的な形の田町南公園がある。かつてはこの場所に囚人墓地があり、牢内で命を落とした人が眠っていたのだという。現在はそのような面影もなく町内の憩いの場となっているが、公園内には「桔梗地蔵」が祀られ、その由来が記されている。

田町南公園の桔梗地蔵



由比正雪首塚の碑



駿府キリシタン殉教の碑

※詳しい場所はP12をご覧ください。

コラム Column

し ず お か か せ ん し む し ょ
静岡河川事務所

現在では氾濫というイメージからは縁遠く、河川敷は憩いの場所ともなっている安倍川。しかし、標高 2,000m の高さから 50km の間に一気に海へと駆け下る安倍川は、実は全国でも屈指の急流だ。上流には日本三大崩れの大谷崩を有し、一度大雨が降ると洪水と共に大量の土砂が流されてくる。大雨が降っても洪水の被害を受けることなく、普段は何気なく川辺で水に親しむことができるのは、安倍川が入念な管理をされているからなのだ。

その管理をしているのが、国土交通省静岡河川事務所だ。洪水、土石流、高潮・津波から人々の暮らしを守るため、安倍川の堤防・護岸整備や点検、大谷崩れへの対策、海岸整備や河川利用者の安全を守るための見回り、水質や動植物の調査を行っており、その活動は山・川・海を舞台に非常に広範に及ぶ。お話を伺った折戸さんによると、それらすべては「人々の笑顔のため」という一点につながるのだと言う。

日頃安倍川を訪れる人でも、管理している河川事務所を普段意識することは少ないだろう。それ自体が河川事務所が大きな役割を果たしている証拠なのだ。



特集 職人のまち

特集 田町と安倍川

特集 職人のまち

エリアA

エリアB

特集 田町公園

エリアC

アンケート

Information

田町は昭和20年代頃よりものづくりの町として発展した。木工屋が多く、最盛期には朝から晩まで木工機械の動く音や荷運びの車の音がにぎやかだったとか。現在では最盛期に比べ職人の数は激減し、後継者不足や輸入製品との販売競争の激化などの課題を抱えているが、静岡の伝統工芸を今に伝えている方も多くいる。
ここでは木工製品の作業の流れを例にあげながら、今も田町で伝統工芸を続けている人々を紹介したい。

製材 伐採した木を
角材や板に加工する。

塗り
出来上がった木地を漆で塗る。
温度や湿度によって変化する漆の
状態を見極めながらの作業が必要
となる。拭き漆・研ぎ出しなどの
様々な技法がある。

◆奥田タンス店

「この仕事が好きだからやっていけるんだよ」と話してくれたのは、奥田タンス店 2 代目の奥田久生さん。奥田タンス店ではすぐ裏にある大畑木工で大畑さんが仕上げたタンスの塗装を行っている。塗りの工程は丁寧に乾かすことが大切で、晴れた日に奥田タンス店に行くと日向ぼっこをしているタンス達を見ることができる。



◆駿河漆器めぐみ工房・石川

めぐみ工房は、木から加工された箱やアクセサリなどの製品を塗装する塗師の工房だ。この道一筋の 2 代目・石川秀次郎さんは、奥さんの和恵さんと二人でこの工房を営んでいる。
漆器の塗りは、なんと 36 工程も必要と言われるほど非常に手間のかかる作業だ。塗った漆に埃がつかないように、毎日の掃除には細心の注意を払うとか。今では人件費の安い外国に技術が流出し、職人も減ってしまったが、めぐみ工房では静岡の伝統工芸を現代に伝え続けている。



富士山、登呂遺跡、静岡市役所本館など、静岡独特の蒔絵が施された名刺入れ



※伝統工芸の技術保存と後継者育成のため、静岡市では昭和50年度より特に優秀な技術者を「静岡市伝統工芸技術秀士」に指定しており、田町地区からも数名が指定を受けている。

木工 木材をカンナやヤスリで加工し、
製品を作る。出来上がったものは
“木地(きじ)”ともいう。

◆大畑木工

大畑木工では主に桐ダンスを作り、出荷している。木地づくりは家具の基礎となるため、ひとつひとつ手作業で丁寧に仕上げるのが大切なのだという。
大畑さんは、中学卒業後故郷の掛川を離れ、田町に移り住んで 55 年になる家具職人だ。仕事が大好きで、夜でも休日でも気付くと工房に来てしまうという大畑さん。今では安い輸入品が溢れ、職人には厳しい時代になってしまったが、「この仕事は定年がないのがいいところ。体が動く限り続けていきたい」と笑顔で話してくれた。



蒔絵 漆器の表面に、漆を用いた塗料・金粉・
貝殻等で絵を描く。半乾きの漆の上に
金属粉を“蒔(ま)く”ことから
その名がついた。

◆安野漆蒔絵工房

安野漆蒔絵工房を営む蒔絵師の安野さんは、田町生まれでこの道 50 年以上のベテランだ。安野さんの工房では、現在主に小箱やかんざしなどに装飾を施し、東京を中心に出荷している。
実家の家業は工芸に関わるものではなかったという安野さんだが、小さい頃から職人に囲まれて育ったため職人になるという選択は自然なものであったという。静岡市伝統工芸技術秀士(※)にも指定されている安野さんの蒔絵は精密で芸術的。磨きぬかれた技術の高さが光る。



曲物

◆細田漆工所

細田漆工所の細田豊さんは、代々田町で漆器を作り続けている 3 代目の漆職人。今では木地作りから塗りまですべての工程を自ら行い、楡を使っためんばなどの曲物(まげもの)を製作している。自宅の奥にある作業部屋の壁には初代から使い続けているという年季の入った棚があり、中には大小様々なめんばがぎっしり。

漆は抗菌作用があるため弁当箱や食器に適しており、長い間使って塗がはげてしまったり壊れたりしたものも、要望に応じて塗り直しや修理を行っているという。「その人がどんなふうに使ってたのかわかることができる」と嬉しそうに話す細田さんからは、漆器に対する深い愛情が感じられる。



“拭き漆”で何度も漆を染み込ませる。

花火

◆静玉屋

静玉屋は、大正時代に田町で創業された、夏の夜空を彩る花火の工房だ。安倍川花火大会においても、花火の 4 分の 1 ほどが静玉屋によるものだという。
社長の田畑さんの今のこだわりは、「平面より立体を！」の一言。日本の花火はきれいな丸型が特徴。絵や文字を作るのは難しいが、それも見る方向によっては形が崩れてしまう。そこで静玉屋が開発したのが、どこから見ても同じものに見える「3D花火」。昨年袋井で開かれた花火職人の競技会では、3Dのキノコ型花火で創作逸品花火の部の優勝を射止めた。現在工場は新聞に移転しているが、これも間違いなく田町の育んだ職人技だ。



複雑に火薬を組み合わせて作られる花火玉。輝くのは一瞬だが、1玉作るのに1か月もかかるという。



コラム Column

のこぎり め た 鋸の「目立て」

現在の鋸は、切れなくなったら使い捨てしてしまうものが多いが、かつてはこぼれた刃を研ぎ、歪んだ板を直して使い続けていた。この技術を「目立て」と言う。鋸の刃をひとつひとつ研ぐのには大変な注意力と集中力が必要だ。びっしり並んだ鋸の刃がきっちり垂直に立ち、きれいに揃っていないと、鋸を引く時にまっすぐ引けず曲ってしまう。板の歪みを金づちで叩いて直す工程も、職人としての鋭い感覚に裏付けられた非常に高度な作業だ。職人の技を支えていたのも、また職人の技なのだ。



鋸の目立ての様子。非常に繊細な作業だ。

駿河
竹千筋細工

◆竹工房はなぶさ

四番町に生まれ育った黒田英一さんは、中学卒業後、駿河竹千筋細工の職人だった叔父に弟子入りした。その後 60 年以上竹千筋細工一筋という黒田さんは、平成 4 年、その高い技術を評価され静岡市伝統工芸技術秀士にも指定されている。今でも自らデザインを行い、展示会への出品のために毎年のように新しい作品を創作し続けている。

竹工房はなぶさでは、息子の雅年さんが 2 代目として技術を受け継いでいる。今では各々で創作活動を行っているという二人。「ライバルですか？」と訊くと雅年さんは「親父の方が断然うまい！」と顔をほころばせた。



英一さん(上)と息子の雅年さん(左)

コラム Column

げ た 下駄のススメ

「昔は下駄の木地が山を成して積まれていた」と懐かしそうに話してくれたのは、金澤伸治商店の旦那さんと奥さん。今では昔のように一から製作することはしていないが、それでも店頭でのんびりと下駄を売り続けている。

金魚・ハート・自動車……様々な模様の鼻緒がかわいらしい子ども用の下駄が充実しているのは、子どもたちに少しでも下駄に馴染んでほしいという思いから。つば押しで健康促進の効果もあるという日本人に馴染みのある下駄を、もう一度見直してみたいかがだろうか。



値段もお手頃な子ども用の下駄

特集 田町と安倍川

特集 職人のまち

エリアA

エリアB

特集 田町公園

エリアC

アンケート

Information



01 かかりつけの靴屋さん カジュアルモチヅキ

病気・怪我・生まれつき、色々な原因で歩くことに悩みを抱えている人は少なくない。そんな人たちに合わせて靴を加工することで悩みに答えてくれるのが、望月さん兄弟が営むカジュアルモチヅキだ。

例えば脚の長さが左右で少し違う人には、脚の長さに合わせて靴底の厚みを変えた靴を。左半身の不自由な人には、右手だけでも履きやすい靴を。持ち込まれる悩みは千差万別だが、確かな技術と経験で解決していく。

15年前、加工を始めた時には国内に同業者はわずかしかなかったと語る望月さん。今では県内外から広くその腕を頼られる、その道の先駆者なのだ。

コラム Column

まつのきじんしゃ 松ノ木神社

田町一丁目の片隅に建っている小さな社が松ノ木神社だ。言い伝えによれば、昔ひとりの行者が、遍歴の末に当時田町にあった大きな松の木の下に住みつき、地域の人々の話し相手になったり、病気を治したりして人々に慕われていたのだという。この行者が亡くなった時、地域の人々が行者を偲んで小さな社を建てたのが神社の始まりなのだそう。昔から人と人のつながりが大切にされていたことが窺えるエピソードだ。

今では、毎年9月のお祭や、季節ごとの催事の会場としても親しまれている松ノ木神社。当時から大切にされてきた地域のつながりがこの社を通じて受け継がれているのかもしれない。



望月さん兄弟の工房。多様な道具を駆使して、この世に一つの靴を作り出す。



02 お好み焼き たけっち

店主の竹田さんが「たけっち」を開いたのは4年前のことだ。もともとお子さんの友達からおいしいと評判だった「たけっち＝竹田さん家」のお好み焼き。一念発起して何か店をやろうと思ったときに、これでいこう!と思ったという。

テーブルがひとつとカウンターだけのこじんまりした店内は、まるで実家に帰ってきたようにほっとできる空間だ。お好み焼きの他にも、昔ながらのおでんやご主人手打ちの蕎麦も人気で、ご夫婦が自ら焼いたという食器もひとつひとつが味わい深い。

いつも「おかえり」という気持ちでいるという竹田さんに、ぜひ会いに行ってみてほしい。



ふわふわのお好み焼き

03 丸河屋酒店

「大人になれば誰にとっても身近な存在になるお酒。にもかかわらず、算数や理科と違ってお酒に関することは誰も教えてくれない。もっと教えられべき」と話す丸河屋酒店 2代目店主の河原崎さんは、店頭で各種酒類を販売するほか、酒に関する講座を行うなど、精力的に活動している。

20代後半には勉強のために蔵元に入り、酒造りを学んだこともあるという河原崎さん。誰でもできる既製品の販売だけでなく、自分の個性を出せないか、との思いから、平成22年には仲間と日本果実酒倶楽部を結成し「梅酒用秘蔵酒」をプロデュース。みりんのアルコール度数を上げた果実酒用の酒で、これさえあれば砂糖も必要ないという優れたもの。雑誌等にも取り上げられ、人気は上々だという。お酒の魅力を誰よりも知っている河原崎さんの話を聞けば、今までより一層お酒が好きになると間違いなしだ。



04 江戸の香 寿し幸 本店

寿し幸本店が開店したのは、薩摩土手が削り取られた後の昭和43年頃。社長の豊嶋さんは塗師の家に生まれ育ったが、一度企業に就職した後に寿司職人の道へ進み、東京で修業を重ねた。「職人の子はやはり職人。天職を見つけたかった」と話す豊嶋さんからは、伝統工芸ではないが田町に息づく同じ「職人」の魂が感じられる。

店に入ると、カウンターに沿って新鮮なネタがずらり。店長の小田さんは、寿司の技術を披露する全国大会で金賞を取ったこともあるほどの腕前。店内にも飾っている笹切りは、もはや芸術品だ。

店内には薩摩土手があった頃の貴重な写真が飾られており、土手の歴史に思いを馳せながら職人の握った寿司を楽しむことができる。



店長の小田さんと社長の豊嶋さん

05 スパジオ・シブタケ

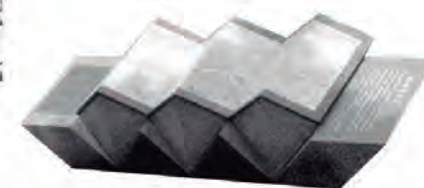
まずは、左の写真を見て欲しい。どこかで見たことはないだろうか。これらは、すべてスパジオシブタケがデザイン・制作を手掛けたモニュメントだ。サイン(看板)、モニュメント、イベント会場などスパジオシブタケが作るものは幅広く、日々の暮らしの中で何気なく目にしているものも数多い。そのデザインは全国的にも高く評価され、受賞歴は枚挙にいとまがない。

社長の奈良間さんが「サインは景観を作る。街づくりに貢献できれば」と語る通り、スパジオシブタケのデザインは景観に自然に溶け込み、その魅力を引き立てる。ちなみに「スパジオ」とは空間を意味する言葉。それを社名に取り入れていることにも、物のデザインだけでなく空間全体を大切にしている心が表れている。



スパジオシブタケのデザイナーさんたち。後にあるのは、駿府公園のお堀沿いにある弥次喜多像の原型。

右上：丸子にある駿府匠宿のモニュメント
右下：駿府公園内のモニュメント



06 四季の味 竹酔

竹酔は配達専門のお弁当屋さんだ。市内各所に届けるお弁当は毎日2千食にもなるという。

「ワンランク上のまごころのこもった料理」と社是に謳う竹酔のお弁当には、職人の技が冴える。例えば2か月ごとにメニューの変わる「季節替わりの折詰弁当」は地元の旬の素材が取り入れられているだけでなく、見た目にも季節の移り変わりを感じることができる彩り豊かなお弁当に仕上げられている。

店頭販売のない配達専門であるだけに、お弁当を届ける時のコミュニケーションは大切にしているという。ほんのわずかなやりとりからお客さんの心をくみ取ることが、愛されるお弁当づくりの秘訣なのかもしれない。



見た目にも楽しいお弁当を、配達車が市内各地へ送り届ける。

07 Photo Studio Peace

ショーケースに飾られた記念写真は、どれを見ても活き活きとした被写体の表情が印象的。Photo Studio Peaceを営む杉山さんは「今までにない写真を、人の喜ぶ記念写真と言う分野で撮りたい」と語る。

そんな杉山さん、昨年「企業戦士サラリーマンダム」と題した写真展を開催した。アニメの名シーンをサラリーマンで再現したこの写真展には1,200人以上の人が訪れた。写真展を見て撮影に参加したいという人も次々現れ、気がつけば人の輪が大きく広がっていたという。

今後はスタジオを改装してカフェを開業、カフェを使いたくつろいだ形式の記念写真も考えているという杉山さん。今後もどんな写真で人々を楽しませてくれるか、期待は尽きない。



企業戦士サラリーマンダムで展示された「アイキャッチサラリーマン」

08 春日

春日はおにぎりの店……と言っても、握りたてのおにぎり、20年以上も注ぎ足して同じスプーンを使っているおでん、お寿司屋さんと同じ作り方の稲荷寿司など、自慢の品でいっぱい。

開店当初から30年以上この店を切り盛りしてきたのは、おかみさんの古谷さん。お店で時折聞いているというCDを1枚手に取ってみると、洋楽の最新アルバムだ。「新しいものを吸収しないとね!」と元気一杯の古谷さん。その趣味のせいか子どもや若い人とも話のテンポが合うのだとか。

買い物に来る人には話しかけてつながりを作るように心がけているという古谷さん。おそらく、こうして次の世代にも地域のつながりが受け継がれていくのだろう。



09 学生服のアリタ



田町公園沿いの道を歩いていると、「合格祈願」の文字と小さな祠が目に入る。祠を覗き込んで見ると、内側には「受験生応援歌」の歌詞が記されている。この祠を設置したのは学生服のアリタの店主、有田さん。お客さんである学生のために受験生の名前を織り込んだ応援メッセージや、本物の四葉のクローバーを押した花にした合格祈願のお守りなど、色々なプレゼントをしていたのだそう。どれを取っても、有田さんのユニークな発想と、ストレートな応援の気持ちが伝わってくる。

もちろん、受験生応援歌の歌詞も有田さんオリジナル。どんな歌詞かは是非自分の目で確かめてほしい。



駐車場にある、合格祈願の祠

10 アロハクラブ静岡

軒先にハワイの州旗がはためくアロハクラブ静岡。店内には色とりどりのフラダンス用スカートや南国風の雑貨が並ぶ。

以前静岡まつりの夜桜乱舞に参加して以来、踊ることの楽しさに目覚めたというオーナーの望月さん。その後以前から興味を持っていたフラダンスを踊るようになり、今や15年というベテランだ。当時フラダンスの教室や店は静岡にはなく、東京や横浜まで出向いて習っていたのだという。現在では数十人の生徒を持ち、店に隣接したレッスン室だけでなく島田や藤枝まで出向いてレッスンをする日々だ。

「人と人とのふれあいが楽しい。逆に教えられることも多い」と話してくれた望月さんは、自分の好きなことをめいっぱい楽しんでいるようだ。



11 古美術 アンティーク時計 不思議

「手入れさえすればずっと使えるのが、機械式時計のいいところなんです」。そう言って店主の大村さんは、ずらりと並んだ壁掛け時計を指差した。古いものは120年もの時を刻んでいるという。店の名前の「不思議」は、10の64乗というとても大きな数の単位でもあり、まるでこのたくさんの時計のことを言っているようだ。

店内には時計の他にもナイフや万年筆など、ご主人が買い付けてきた骨董品の数々が並ぶ。中でもユニークなのは、小刀型の手裏剣だ。その美しく整えられたラインと、ざらりと光る刃先は一見する価値がある。

「不思議」はやはり不思議な店である。しかしそれと同時に、大好きなものに囲まれたときのあの幸せを、ふと思い出させてくれる店でもある。



店の奥からおもむろに出された手裏剣。もちろん購入も可能。

特集

田町公園・西部生涯学習センター



■新施設のココがスゴイ!

01. 環境にやさしい



施設の屋上には、太陽光発電を行うためのソーラーパネルがぎっしり。館内にあるモニターで発電状況を随時見ることができ、太陽光のエネルギーに驚かされる。各室、廊下ともに自然の採光を確保するよう設計されており、環境にやさしい次世代の施設になっている。

02. 子育てにやさしい



子どもと保護者が自由に遊ぶことのできる、授乳室も完備したキッズスペースが設置されている。公園に面した位置にあり、将来的には公園と直接行き来することができるように。他にも女子トイレには全個室にベビーチェアが設置されるなど、田町公園との一体化を見据え、子ども&子育て世代に配慮した造りになっている。

03. みんなで作ったセンター

施設を新設するにあたって、対象エリアから公募で集めた一般市民を含めたメンバーで度重なるワークショップを行った。ワークショップでは「3世代で交流できるような施設にしたい」「防災活動ができるように」などの意見が積極的に出され、完成した新施設には市民の意見が反映されている。



田町公園の未来予想図



「公園と生涯学習センターの一体化」のコンセプトのもと、公園も一新される予定だ。新しい田町公園で特徴的なのが「防災広場」。防災広場には、災害時にかまどに変身する「かまどベンチ」が設置されるほか、公園と生涯学習センターの調理室が直接行き来できるよう設計されていたりと、災害時に地域の拠点として機能するよう考慮されている。

12 はなまる大石

はなまる大石は、静岡では見る事の少ない、注文したその場で焼いてくれるたこ焼き屋さんだ。注文してから焼き始めるので少し時間はかかるが、焼き立てでふわふわしたたこ焼きを味わえる。

たこ焼きの他にも、ソフトクリーム、ポテトなどお手軽なおやつが揃っている。値段はどれも抑え目だが、これは「子どもが気楽に食べられるように」との大石さんの心遣いだ。そんなお話を聞く間にも、学校帰りの子どもたちがお店を覗き込んで挨拶していった。たこ焼きの味はもちろん、大石さんの人柄が子どもたちを惹きつけているのだろう。



コラム Column

静岡情報処理部

平成17年から続いている西部生涯学習センターの名著講座、「西部パソコンサロンへようこそ」では、指導にあたるパソコンわかばくらのボランティアメンバーに加え、静岡商業高校情報処理部の生徒たちが大活躍。マンツーマンでパソコンの使い方を教わることもできるこの講座は、年配の受講者を中心に、開始時には受付に列ができるほどの人気だ。

もともとは情報処理に関する資格を取るために入部する生徒が多いという情報処理部だが、「ボランティアで教えて、分かってもらえると嬉しい」と2年生の小松さんが話してくれたように、この講座で教えるやりがいを感じる生徒もいるようだ。

「西部パソコンサロンへようこそ」はパソコンの使い方を習うだけでなく、貴重な世代間交流の場となっている。「孫よりも若い子にやさしく教えてもらえた」と受講者の方は笑顔で話してくれた。



13 第一不動産 田町店

「人住み 人笑う」が第一不動産の経営理念。昭和58年に創業後、田町に店を構えて20年以上。今年の2月にはリニューアルオープンしたばかりだ。明るく開放的な店内には静岡の今と昔の写真を合わせた特大パネルが飾られ、人の暮らしの変遷を窺わせる。

今では不動産業だけでなく建物管理（24時間）や内装・リフォーム工事などを担当する関連会社を持ち、暮らしを総合的にサポートできるようにしているという。また最近では東日本大震災で静岡に避難してきた方たちのために優遇した物件を扱うなど、静岡市を代表する不動産会社としてその力を発揮している。



14 ている一む T&T

どこか懐かしい店内のている一む T&T は、小説片手にコーヒーを飲みたくなる雰囲気のお店。マスターの岡村さんが店を始めたのは32年ほど前、開店当時から通い続けてくれるお客さんもいるという。

店内に並ぶ様々なパンやケーキは、すべて岡村さんの手作りだ。「理想の食パンが手に入らなくて、自分で焼き始めたのがきっかけ」という話だが、今では食パンだけでなくバターロール、メロンパン、クリームパン、ツナマヨパン……などなど、様々なパンが並ぶ。

お店をやって良かったことは？という問いに、マスターは考えた末「女房とずっと一緒にいられたことかな」とはにかみながら答えてくれた。そんな温かいマスターが淹れたコーヒーを、ぜひ飲みに行きたい。



15 森下商店

「宇宙人も好きなおでん」。お店の前には、ロケットや UFO のイラストと共にそんな言葉の記されたハンカチがはためいている。昔ながらの駄菓子屋さんといった雰囲気の森下商店は、創業から60年以上もの間、地域の子どもたちに親しまれている。

ハンカチを作ったのは、なんと易者でもあるというご主人の森下さん。ちなみに UFO は「希望」、ロケットは「根性」、土星は「安定感」を表しているそうだ。学校帰りに寄った子どもが森下さんに手相を見てもらったり、子どもの頃に来た人が、懐かしくなっておでんを食べに訪れたり……と、宇宙人でなくても森下商店を好きな人はたくさんいるようだ。



16 社会福祉法人 静岡手をつなぐ育成の会 ラポール安倍川

本通り沿い、色鮮やかな看板につられて店頭を覗きこむと、そこには手織りの布を使って作られたバッグやポーチが並ぶ。それらはすべて、ここ「ラポール安倍川」で作られた手作りの品々だ。

ラポール安倍川は、障害を持った方たちの働く場として、平成元年、「安倍川授産所」として設立された。運営委員には安倍川中学校の校長先生や地域の町内会長が代々参加し、地域と共に歩んできた。開所当時は7～8人だったメンバーも今では22人に増え、お互いが家族のように繋がり合い、この場所で共に仕事をしている。

製品を見てみると、それぞれ色合いや形が違い、ひとつとして同じものはない。ラポール安倍川で作られた製品のブランド名は「ゆにーく」。技術や技能を競うのではなく、それぞれ独自の感性を生かした個性的な製品を作ろうというメッセージが込められている。



色鮮やかで個性的な「ゆにーく」の手作りバッグ

アンケート

田町の人たちに訊きました！

私たちが生きて生活していく上で、どんなまちに住むかということは切っても切れない重要な要素。どんなまちで暮らしたいか、自分たちの暮らすまちをどんなまちにしたいか、そんなことを田町の人たちにたずねてみた。

Q. 田町がどんなまちになったらいいと思いますか？



「心やさしく きれいで住みやすい町 田町」と答えてくれたのは、田町小学校4年生のみんな。福祉について学習しているようで、「心やさしい」とは、高齢者や小さい子ども、妊婦さんなどにもやさしく暮らしやすい町のこと」と話してくれた。

また、伝統工芸や地場産業の発展や伝承を願う意見も見逃せない。静岡市の豊かな伝統工芸の歴史は、後継者不足や安い輸入品の流入などによって失われつつあり、先人た

ちの残した技術や伝統を未来へとつなげていくことが期待される。

時代の変化によって人々の暮らしもまた変化するもの。ここ田町も、ここ数十年で大きく様子の変わったまちのひとつだ。しかし地域の深い「つながり」や「ふれあい」を求める思いは、今も昔も変わらないだろう。



人住み人笑う

暮らしのよろこび、きっとみつける。



人が好き、
街が好き、
だからココがいい。

第一不動産

===== 24時間管理 =====

田町店 TEL.054-272-1111

静岡南店 TEL.054-260-7070

<http://goo.gl/dd5gv>